

中央区八丁堀)において実施した。調査対象者は、20歳代後半から39歳の男性7名である。内訳は、子供のいる父親5名、結婚もしくは子供を持つ意向のある独身者2名である。職業は、勤め人4名、自営業2名、フリーター1名である。

4. 社会人グループB

2003年3月18日(火)に、日本リサーチセンターのインタビュールーム(東京都中央区八丁堀)において実施した。調査対象者は、20歳代後半から40歳代前半の女性7名である。内訳は、子供のいる主婦5名、結婚もしくは出産意向のある独身者2名である。職業は、フルタイムの勤め人4名、自営業2名、パート・アルバイト1名である。

なお、社会人グループについては、内分泌攪乱物質のリスク・「環境ホルモン」に関し、多少は興味・関心のある人、既婚者および子供を持つ意向のある未婚者と言うことを条件に抽出した。

これらの調査対象者は、日本リサーチセンターのネットワークによって抽出された。

(インタビューのフロー)

1. イントロダクション(10分/10分)

1) グループインタビュー主旨の説明

「今日は、『環境ホルモン』というテーマで座談会を開催いたしました。皆様が日ごろ、環境ホルモンに対し、どの程度、関心をもっているのか、どのような情報・知識をもっているのか、環境ホルモンに対して、どのように考えているのか、など率直なご意見をうかがいたいと思います。」

司会者の紹介、話し合いのルール説明、研究のために速記とビデオをとらせてもら

うことを説明し了承してもらう。

2) 自己紹介

「最初に自己紹介をお願いします。内容は…。氏名、居住地域、家族、職業、趣味などである。

2. 現状把握(20分/30分)

1) 「環境ホルモン」に関する知識・情報

「『環境ホルモン』という言葉を知っていますか」「『環境ホルモン』と聞くと、どんなことが頭に浮かびますか。ご存知のこと、聞いたことがあること、どんなことでもけっこうですので、教えてください」「環境ホルモン」という言葉を知ったことがあるのか、いつごろから知っているのか。「環境ホルモン」について、どんな情報をもっているのか、情報源は何か(TV、雑誌、本、口コミ・・・)、「その情報を信じているのか、なぜか」。

2) 「環境ホルモン」への関心度

「あなたは、『環境ホルモン』に関して、具体的に何かしていることはありますか」。

具体的に行動していることはあるのか、それはどういうことか、どうしてそういうことをしようと思ったのか。

「環境ホルモン」に対して、どの程度、関心をもっているのか、なぜ関心をもっているのか、いないのかを明らかにする。

3. 環境ホルモンに関する情報の認知と信頼感、対処方法(30分/60分)

1) 各情報の認知状況

「ここに、環境ホルモンに関するいろいろな記述があります。正しくないものもあります。今、皆さんにご自由に話していただいた内容と同じものもあります。この中で、あらためて今まで聞いたことがあるものを教えてください。」

情報を提示し、知識を再確認する。何も提示しない時には発言がなかったが、この段階で認知を確認できる情報は何か。なぜ、フリーの発言時には、そのことが出てこなかったのか（忘れていたのか、環境ホルモンとは関係ないと思われていたのか）。

2) 各情報の信頼性

「では、ご存知の情報について、あなたが正しいと思うものはどれでしょうか。」

正しいと思われている情報は何か、なぜ、その情報を正しいと思うのか（信頼できる情報源だから、あちこちで聞くから、何となく・・・）。

3) 各情報に対する行動

「では、正しいと思われる情報に対して、日ごろ、何らかの行動をされていますか。」

正しいと思う情報に対して、何か行動しているのか、特に、消費・購買行動で何かしていることはあるのか、ないのか、その理由は何か。

4. 「ホルモン」および「環境ホルモン」に関する正しい情報の認知 (20分/80分)

1) 「ホルモン」についての認知 (質問14)。「『ホルモン』」についての正しい記述です(読み上げる)。ご存知だったこと、ご存知なかったことを教えてください。知っていた点、知らなかった点は何か。

2) 「環境ホルモン」についての認知 (質問15、次に質問16)

「『環境ホルモン』」についての正しい記述です。(読み上げる) ご存知だったこと、ご存知なかったことを教えてください。

知っていた点、知らなかった点は何か。知っていた点について、情報源は何か。

3) 考え方の変化

「これらの記述を読んで、環境ホルモンに対する考え方が変わりましたか?。」

考え方が変わるか、どう変わるのか、特にどの記述の影響か。今までの生活を見直そうと思うか、具体的にはどういう点か。

5. 環境ホルモン問題に対する考え方 (20分/100分)

1) 生活の不便さ・ライフスタイルの変化の受け入れ

「環境ホルモン問題に関し、生活が不便になることについてどう思いますか。」

ゴミを分別するなど手間をかけること、企業が環境にやさしい製品を開発するためにコストがかかり、価格が高くなるといった経済的な面。

2) 次世代問題への対応

「オスがメス化する、オスが生まれえないなど、環境ホルモンが次世代問題に影響を与えていることが証明されたら、どうしますか。」

今のライフスタイルを変えるのか、変えないのか、なぜか。変えるとしたら、どう変えるのか。

3) 国(厚生労働省)や企業への期待

「環境ホルモン問題に関し、国(厚生労働省)や企業に対し、どういうことを望みますか。」国(厚生労働省)に対する期待は企業に対する期待は何か。

6. 今後、希望する情報と情報開示方法 (20分/120分)

1) 希望する情報内容

「『環境ホルモン』」に関して、今後、どういう情報が知らされたらよいと思いますか。」

情報は必要か、あるいは不要か、必要だ

としたら、どういう情報があるとよいのか、その理由は何か。

2) 情報開示方法

「希望する情報は、どういう形で知らされたらよいと思いますか」。

情報媒体としては何がよいか (TV、新聞、雑誌、インターネット・・・)、その理由は何か。

また、その媒体で、どういう形で入手できるとよいか (単発、シリーズ・・・)。

C. 研究結果と考察

2003年3月4日(火)に学部学生と大学院生を対象として実施したグループインタビューの結果は以下の通りである。

1. 環境ホルモンという言葉聞いて何を思い出すか

- ・生殖能力が衰える
- ・雑誌の中吊り広告で精子数の減少が騒がれていた

- ・サランラップの原料である塩化ビニルの使用が廃止になったこと

カップめんの容器からダイオキシンが溶け出す可能性があること

ごみ処理施設やカップめんの容器とダイオキシンが関連性があるという認識はあったが、それが環境ホルモンに結びつかないという意見が多かった。環境ホルモンについて具体的な認識を持っている人は少なかった。

2. ホルモンという言葉のイメージ・思い出すこと

- ・内蔵、ホルモン焼き
- ・元気が出そう
- ・内分泌という言葉(生物の授業で習った)

3. 環境ホルモンという言葉をはじめて聞

いた時どのように思ったか

- ・自然現象である
- ・身近なものではない
- ・具体的に何があるかわからない

4. カップめんに関する情報を聞いて行動を変えたことがあるか

- ・以前からカップめん自体が体に良くないと思っていたので、特に変化なし

- ・もともとカップめんを食べない

カップめんはもともと体によくはない

という認識が高く、環境ホルモンに関連があるかもしれないと分かっていても特に影響はないという回答が多かった。具体的な企業名がわかれば、その企業の製品はできるだけ避けるようにしたいという回答も多かった。他に選択肢が無ければ、気にせず購入しつづけるという回答も少数あった。

5. 健康食品やサプリメントに対する認識

- ・テレビの情報番組で紹介されているものに対しては興味がわくが、実際に購入することはほとんどない

- ・一時的にはおぼえているが、新しいものが出るとすぐに忘れてしまう。

- ・副作用などの危険性は考えたことが無い
- ・効果や安全性について疑問に思う

6. 健康や美容に効果があるという情報に対して、一時的に興味を持つ人は多かったが、実際に購入する人はほとんどいないようであった。副作用などの危険性について考える人はほとんどいなく、企業の売込み的な要素が強いという認識が強かった。

環境ホルモンのリスクをどのくらい感じるか

- ・目で確かめることができないので危険性を感じない

- ・自分とは無関係に思う

・本当に危険であったらもっと話題になっているはずなので危機感はない

・自分や身近なところで被害にあっているのを見たことがないので実感がわからない

漠然と環境ホルモンは危険なものだという認識はあるが、実感がわからないという回答が目立った。

7. 環境ホルモン以外に危険を感じるものは何か

- ・地球温暖化、オゾン層破壊
- ・紫外線が肌に悪影響を与えること
- ・タバコの危険性

他に、電磁波が体に悪い、SE系の会社に勤めている人の子供には女の子が多く生まれるなどの認識を持っている人がいた。原子力発電所の危険性については、特に不安を感じている人はほとんどいなかった。

8. 地球温暖化やオゾン層破壊に対する危険度を10点とした時、環境ホルモンの危険度はどのくらいか

- ・6～7点 2名
- ・2点 3名
- ・1点 1名

9. 環境ホルモンが本当に危険だと分かった場合にはどうするか。リスクはどのくらいまで受け入れられるか

- ・危険度が本当に分かれば、生活の不便さを感じてもがまんする
- ・リスクは絶対に受け入れられない
- ・タバコなどは体に悪いと知っていてみんな吸っているの、自分に被害があると思ってもやめないかもしれない
- ・本当に被害があるかどうかわからない問題なので、変化は無いと思う
- ・ある程度、食品を選ぶ時に気をつけると思う

具体的に危険があると示されれば購入しない、不便さも多少がまんするという意見と何も変化はないという意見が半々であった。自ら進んでは情報探索することは無いという意見も聞かれた。

10. 環境ホルモンについてどう対処していくべきか

- ・科学者や政府が解決すべき問題である
- ・被害が出てからでは遅いので、情報提供はすすめていくべきである
- ・個人で解決できる問題では無さそうである
- ・具体的な解決策が示されれば、行動に移す。我慢もいとわない
- ・価格が高くなっても安全であれば購入する
- ・情報が錯綜しているので、自分の好きなように行動していく

・自治体がもっと力を入れていくべき
具体的な対応策が示されていないので、どのように対処していいのかわからないという回答が多かった。もっと規制を強化すべきであるなど政府や科学者を頼りにする意見が多かった。選択肢を与えて、個人が選べるようにすべきであるとの意見も聞かれた。企業に求めることとしては、コンビニエンス・ストアやファーストフードでの情報提供を進めていくべきであるとの意見があった。教育機関に期待するとの意見もあった。

11. 厚生労働省に対する信頼感について

- ・情報を隠している、疑わしい
- ・真剣に問題に取り組んでいる人とそうでない人が半々ずついそうである
- ・真剣に取り組んでいる人がいても公にするのは体制的に難しそうである

BSE 事件での厚生労働省の対応のまずさを引きずっている人が多く、全体的に行政に対する信頼感は薄かった。

2003年3月5日(水)に学部学生と大学院生を対象として実施したグループインタビューの結果は以下の通りである。

1. 環境ホルモンという言葉聞いて何を思い出すか

- ・環境に悪い物質というイメージ
- ・身近には感じない
- ・生物(かえるや魚)がメス化している
- ・化学物質が海を汚染している
- ・埼玉でほうれん草からダイオキシンが検出されたこと
- ・カップめんの容器を燃やすとダイオキシンが発生する(ニュースで見た)
- ・ごみの焼却時に、高温で処理しないと有害な物質が発生する

2. 環境ホルモンについての説明を聞いたあとに思い出したこと

- ・ペットボトルに入っている液体には、環境ホルモンが溶け出している。とくに、炭酸飲料はダメ。(高校の授業で習った)
- ・性同一性障害の人が増えている
- ・女性の卵巣腫瘍が増えている
- ・女性のガンが低年齢化している
- ・アルミ缶から発ガン性物質が出ている
- ・ハウスシック症候群

生物のメス化について知っている人が若干名いたが、環境ホルモンという言葉だけではほとんどイメージすら持っていない状況であった。ダイオキシンという言葉聞いて、思い出すことが多かったようである。ダイオキシンの有害性や水質汚染、さまざまな病気に関する情報は知ってい

るようであったが、そのことと環境ホルモンとは関連性があると思っていない人がほとんどであった。

3. カップめんに関する情報を聞いてどう思うか

- ・嫌な気持ちにはなるが、食べつづける
- ・味を重視して選ぶので危険性はあまり意識しない
- ・はじめのうちは心配になるかもしれないが、時間がたてば忘れる
- ・普段から食べる機会が少ないので、何も変化はない

4. 環境ホルモンのリスクをどのくらい感じるか

- ・あまり気にしない
- ・自分は大丈夫だと思う
- ・時間がたってから被害が出てくる問題なので、今は気にしない
- ・精子数の減少や自分の子供があぶないということに関しては気になる
- ・生物が被害を受けているということは、人間にも危険性がある証拠だと思う

リスクはほとんど感じないという意見がほとんどであった。微量であっても影響があるということを知っても実際に被害にあった状況を見たことが無いので、あまり気にすることは無いという意見が多かった。

5. 環境ホルモンにどう対処していくべきか

- ・消費者にも気をつける人と気をつけない人がいると思うので、個人が選択できるようにすればよい
- ・国が対処すべき問題である
- ・はっきりと政府が危険性を公表すれば、気をつけると思う

- ・マスコミの報道が過剰である
- ・環境ホルモンは避けようと思っても避けられない
- ・具体的な対処の方法を教えて欲しい
- ・被害が生じてもしょうがないと思う
- ・各家庭に危険リストなどを直接配る
- ・保健体育の授業などでの教育を行う
- ・実際に被害にあった人を見たら考える

政府や教育機関に期待する意見が多かったが、消費者個人がもっと関わっていくべきであるという意見もあり、各家庭にリストなどを作って直接配布していく方法がよいのではないかという提案があった。現在、一番影響がでているものから優先して対処していくべきであるとの意見があった。

6. どのような情報が分かりやすいか

- ・被害の状況を目に見える形で伝える
- ・画像やシミュレーションにして伝える

BSE 問題で、症状の出た牛の映像を見てショックを受けたという意見が多かった。実際にどのような障害がでるか目で見れば、危機感を感じるという意見が多かった。

7. 環境ホルモン以外に危険を感じるもの

- ・ハウスダスト
- ・ホルムアルデヒドによるシックハウス症候群

- ・枯葉剤の脅威
- ・オゾン層破壊による皮膚がん
- ・アレルギーの人が増加していること
- ・ごみ問題

8. 環境問題と聞いて思い出すこと

- ・森林破壊
- ・オゾン層破壊

9. マスコミや政府に要望すること

- ・マスコミが騒ぎすぎだと思うので、分か

っていることと分かっていないこと両方をきちんと伝えていくべき

- ・視聴率だけを考慮して報道すべきではない
- ・基準を設けて欲しい
- ・具体的な対処方法を教えて欲しい
- ・援助金などを出して、企業のサポートも考えていくべき

環境ホルモンという言葉聞いたことはあるひとは多かったが、具体的なことを知っている人はほとんどいなかった。ダイオキシンに関する認識は高く、有毒性や発生の原因などについて知っていたが、環境ホルモンとは関連性がないと思っていた人がほとんどであった。

「カップ麺の容器から有害物質が出る」「サランラップの原料には人体に有毒なものが使われている」「ごみの焼却時にはダイオキシンが発生する可能性がある」などの情報については、聞いたことがある人が多かった。

環境ホルモンの危険性については、具体的な被害を見たことがないので不安に思うことはないという意見が多かった。実際に危険であることがわかって、一時的に不安を感じるだけで商品の購買や日常生活行動には、ほとんど影響がないであろうという意見が多かった。

環境ホルモンの情報開示は進めていくべきであるが、情報を積極的に求めたり、取り入れる人は少ないであろうという意見が多かった。行政や研究機関に対する期待が強い反面、信頼感は低く、自治体や各家庭へのアピールなど草の根の活動をしていくことも望ましいという意見が聞かれた。

情報開示について、「画像などの目に見える形で情報を伝えてほしい」「対応策について具体的に教えて欲しい」という意見が多かった。個人が選択できるように選択の幅を持たせておくべきであるという提案があった。